

娯楽情報に人気

米国最大・コンピュサーブ

受け手側も発信

世界初、オンラインで記者会見

「新作映画、テレビ番組、音楽の情報を提供してもらえば、当方のオンラインで全世界三百五十万人の加入者に送りましょう」

娯楽情報を映像や音声とともに紹介する、ニューヨークに本社のある「エンターテインメント(E)ドライブ」社長、マイケル・ボラノス氏は映画、テレビ、音楽産業の広報担当者招いたロサンゼルスでのレセプションでこう呼びかけた。

「Eドライブ」は米国最大のオンライン・サービス「コンピュサーブ」の中に昨年二月設立されたマガジ

ン形式の情報発信サイト。百五十万人、毎月十四万人(地点)。コンピュサーブ(有料)に加入すれば自動的に接続できる。コンピュサーブの加入者は米国の五十万人をはじめ全世界で三

告、テレビ番組の筋、コンサート情報、登場人物紹介、新作ビデオ、CD、ゲームの説明のほか、昼のメロドラマや若者の問題、映画を見た感想などについて意見を交換するフォーラムも高い人気だ。

高校生が麻薬で死亡する若者ドラマ「五人組」では

日本語版も検討中

番組の最後で、麻薬で悩む人向けのホットラインを紹介、さらにフォーラムへの投稿も促したところ、数千以上の反響があったという。人気が低迷するドラマについて、加入者の中から「番組を救う会」ができ、脚本家や監督を動かして活性化した例もあった。

「従来のメディアが送る手側の一方的情報を流すの

に対し、最も新しいメディア、オンラインは相互のコミュニケーションが重要だ」とボラノス氏。六月には映画「アポロ13」の公開に合わせ主演のトム・ハンクスらを招いて、「Eドライブ」「アメリカ・オンライン」「ユニバーサル・インターネット・ウェブ」の三者が共同で世界初のオンライン記者会見を開いた。五千人が世界で同時に受信、ハンクスがキーボードに打ち出される質問に答える場面はテレビでも紹介された。

「Eドライブ」は一部の情報をドイツ語、フランス語にし、現地の情報も加えた欧州版を今年春に始めた。ボラノス氏はかつて日本でプロデューサーの仕事をした経験もあり、日本市場での拡大に力を入れている。「日本の場合は言葉の壁を乗り越えることが焦点だ。あくまで楽しむ情報なのだから、英語で頭を悩ませるのは本意でない」と話し、日本語による翻訳の可能性を検討中であることを明らかにした。

＊ ＊

以来、オンライン記者会見の規模と広がりが注目を集めている。「Eドライブ」では十月末、人気まんが「ヒーナッツ」の誕生、四十五歳を記念して作者のシュルツ氏の会見を計画している。

日本では、ニフティサーブを経由してコンピュサーブに接続できる。基本料金は五時間までの使用で月額九、九十五(ニフティは別料金)。今年秋にはインターネットからも「Eドライブ」への接続が可能となる。

「情報が発信者から受け手へ」

「情報が発信者から受け手へ」

変わる

ハイウェイ

下

技術革新の現場から



トム・ハンクス④のオンライン記者会見。ロン・ワード監督⑤、マイケル・ボラノス氏⑥ ©EDRIVE

(佐藤 由紀)